

『大分県立高等学校未来創生ビジョン』策定について

R6.3月
高校教育課

(1) 本県における高校改革の取組

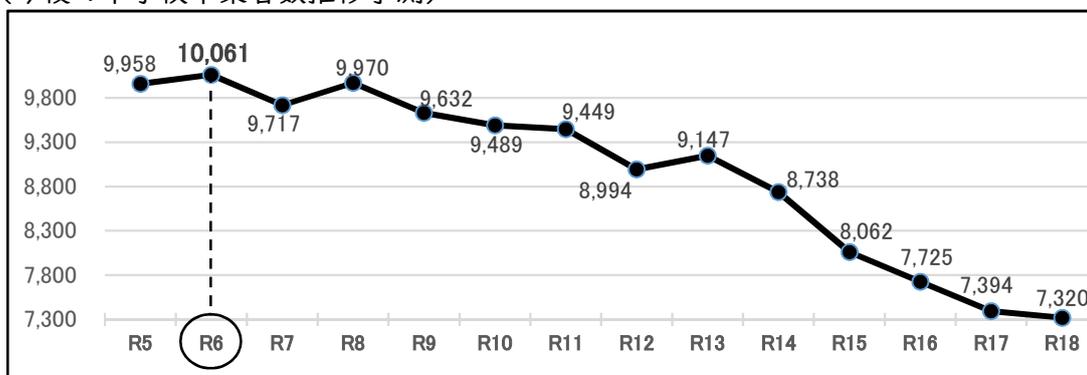
- H17年度～ 「高校改革推進計画」策定(～H27年度)
 - ・県内に普通科、専門学科のバランスを考えて高校を配置
 - ・新しいタイプの学校を設置・導入、特色ある学校づくりを推進
- H28年度～ 中学生に選ばれる魅力ある学校づくりを推進(継続中)
 - ・高校魅力化事業、コミュニティ・スクール設置 等
- R2年度 「新しい時代に必要な資質・能力の育成を目指す学科改編等」
 - 「環境土木科」(国東)
- R5年度 「デジタル創造科」(情報科学)、「地域みらいビジネス科」(津久見)
 - 電子科入学定員増(大分工業)
- R6年度 土木科入学定員増(大分工業)、環境土木コース(三重総合)、SPACEコース(国東)

(2) 策定の趣旨

《課題》

- ・急激な技術革新、少子高齢化、地方創生など高等学校を取り巻く状況の変化への対応
- ・中央教育審議会答申『令和の日本型学校教育』(R3年1月)等、国からの要請
 - 高等学校における「3つの方針」(スクール・ポリシー)の策定・公表
 - 普通科のさらなる特色化(「普通科を主とする学科」設置に係る弾力化など)
 - 高等学校のさらなる魅力化・特色化を進めるための改革が求められている。

(今後の中学校卒業生数推移予測)



《方向性》

- ・本県高等学校教育のさらなる充実・発展を図り、これまでの取組の成果や課題を整理
昨今の社会情勢、国の動向も踏まえ、今後の高等学校の在り方に係る方針を検討
- ⇒『大分県立高等学校未来創生ビジョン』として策定・公表(R6.3月末予定)
 - 県立高校の統廃合を検討するものではなく、全ての学校の魅力向上を目指すもの
 - ビジョン該当期間：R6～R15(策定後5年を目途に内容の見直しも検討)

(3) 策定までの経緯

- R4年8月 「大分県立高等学校未来創生ビジョン検討委員会」設置(検討委員会5回開催)
(県立高等学校校長、公立中学校校長、市町村教育委員会教育長、学識経験者
地方自治体首長、工業、商業、農業、福祉の各分野、企業や保護者から構成)
- R5年8月 ビジョン検討委員会から答申(「報告書」)提出
- R5年10月 「県立高等学校未来創生ビジョン(素案)」公表
- R5年11月 パブリックコメント(11月8日～12月7日) パブコメへの回答公表(R6.1月)

『大分県立高等学校未来創生ビジョン～すべての県立高校の魅力向上に向けて～』【概要版】

I ビジョン策定の背景 急激な技術革新、少子高齢化、地方創生、新型コロナウイルス感染症等への対応、高校の魅力化・特色化のさらなる推進に向けた国の動向(R3.1 中教審答申) 新しい時代を見据えた本県高等学校教育の方針を『大分県立高等学校未来創生ビジョン』として策定(期間:R6~R15の10年間, 5年を目途に見直し)

II 本県 県立高校の現状について

1 県立高校を取り巻く状況(学校・学科の配置状況)

- ・中学校卒業生数は急激な生徒数減前ピーク時からほぼ半減(S63: 20,147人⇒R5: 10,089人)
- ・県立高校の入学定員は、生徒数減少等により半減以上の削減(S63: 15,642人⇒R5: 7,040人)
- ・中学校卒業後の進路の多様化(中学卒業後進路 R5: 県内県立 65%, 県内私立 23%, 県外 4% 他)
- ・高校卒業後の進路先(R4.3 卒業生: 大学等 50%, 専修学校等 25%, 就職 23% 他)
- ・県立高校設置状況(R5): 全日制39校(分校1校含む)、定時制4校(単独1校、全日制との併設3校)
- ・学科配置(R5): 普通科 56.3%、工業科 16.2%、商業科: 8.6%、農林水産系学科 6.0%、総合学科 7.5% 等

R5県立高校配置状況



III 新しい時代を見据えた県立高校の在り方

1 本県高等学校教育が目指すもの(基本理念)

- すべての学校、学科において、生徒一人一人の自己実現に向け、生徒の能力・適性等、可能性を最大限に引き出せるよう、個別最適な学びを推進
- 県内広域から集まる生徒が同じ教室で学びあう環境を、積極的な学びの場と捉え、互いが認め合う多様性(ダイバーシティ)を実現させる教育を推進
- 教員一人一人の授業力向上を目指すとともに、県内どの地域で学んでも、教育の質の担保が図られるよう、遠隔授業のシステム構築など教育DXを推進
- 大学や研究機関、自治体や企業などの外部と連携を図り、STEAM教育や課題発見・解決型の学習など社会とのつながりの中で先端的な学びを推進
- 将来地元で活躍したいと思う生徒の育成につながるよう、地域の幅広い異年齢層との協働的な学びを通じ、地域への理解や愛郷心を育む教育を推進
- 育てたい生徒像や学校の姿を地域と共有し、協力して生徒の育成や学校の魅力づくりを進めるため、学校と地域の協働体制となる組織づくりを推進

2 県立高校の魅力ある学校づくりについて

(1) スクール・ミッションの再定義及びスクール・ポリシーの策定

- ・学校の存在意義や社会的役割等をスクール・ミッションとして学校の設置者が再定義
- ・高校入学から卒業までの一貫した学校の方針をスクール・ポリシーとして各学校が策定

3 新しい時代に対応する学びについて

(1) 普通科

- ・生徒の自己実現や学校の魅力化にもつながる普通科内のコースを活用した学びを推進
- ・産業分野の研究者等の育成にもつながるよう専門学科の学びに触れる機会を設定

(2) 専門学科

《すべての専門学科で共通すること》

- ・AI活用や海外高校生との交流など、先端技術やグローバルの視点を踏まえた取組を推進
- ・企業や大学等との連携、他学科間連携等により、当該学科内だけで完結しない学びを推進

《各専門学科に関すること》

農業(農林水産)学科

- ・先端技術を活用する農家等からの経営的な視点による「儲かる農業」を学ぶ場などの設定
- ・農業先進国との生徒間の技術交流など、今後のグローバル化を見据えた農業教育の推進

工業科

- ・高校の学びと社会を繋ぐインターンシップの充実を図り、実施期間や受入先の工夫を検討
- ・業界を担う人材の確保・育成に向け、中学生や保護者も参加できる出前授業の実施を検討

商業科

- ・専門学校など外部機関と連携した高度な資格取得の実現に向けた学びの研究、検討
- ・ビジネス人材に必要な資質・能力の育成を目指し起業家精神を学ぶ教育を継続して推進

福祉科

- ・高校現場での先端技術の実践に努め、業界との一層の連携により福祉人材の育成を推進
- ・福祉人材の確保・育成に向け、小中学生からの意識向上に向けた福祉体験活動等の実施

(3) 総合学科

- ・外部との連携を進めつつ、社会の変化や生徒の実態を踏まえた系列や科目設定を検討
- ・総合学科の学びの特色を明確化するとともに中学生や保護者に対するの広報活動を強化

(4) 多様な学び

- ・総合選択制のメリットを生かすため生徒や学校の実情を踏まえた有効性ある活用策を検討
- ・現行の単位制高校について単位制のメリットをさらに活かせる学校の在り方について検討

(5) 中高一貫教育の在り方

- ・6年間の計画的・継続的な一貫教育ができるメリットをさらに活かせる学校の在り方を検討

(6) 定時制・通信制高校の学び

- ・生徒の多様な進路実現を図る上で、ICT等を効果的に活用した指導・評価の在り方を検討
- ・通信制課程の質の確保・向上を図るとともにスクーリングの教育環境の在り方について検討

4 魅力ある学校の実現に向けた教育基盤の整備

(1) 学校規模、学級規模の在り方

- ・遠隔教育という新たな教育の在り方が、学校規模の考え方を補完するものと捉え、今後の学校規模の在り方については、適正規模に係る従来の考え方を基本としつつ柔軟に対応

(2) 入試制度の在り方

- ・学力だけに拠らず、生徒の個性や適性を見て多面的に評価する制度や、受験機会を複数回可能にする仕組み、県外からの志願者の一定数の受入れに係る仕組み等の検討

(3) 通学区制について

- ・全県一区制については、地域を越えた高校進学状況や学校の特色づくりの状況、生徒や保護者の声など、選ばれる学校づくりに関して、引き続き現状の把握に努め、検証を行う

(4) 地域とともにある学校づくり

- ・地域との連携・協働を進め持続可能な体制として学校運営協議会を推進する方向で検討

(5) 学びを支える教育基盤の整備

- ・ICTを活用した学校間連携や配信センターの設置など次世代型教育システム構築の検討